

# 教育研究所だより

No.227 令和4年2月4日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳  
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)  
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237  
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp  
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu\_index.html

## わたしの「ホタル学習」のネタ、あれこれ

守山市ほたるの森資料館  
館長 眞田 善之

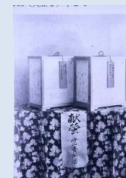
わたしは「ホタルの住むまち守山」に生まれて70年近くたちます。しかし、ホタルのことを意識し出したのはほんの数年前のことです。もちろん自分の子ども時代にホタルを追いかけまわしたという記憶もあまりありません。そんなわたしだからこそ、「ホタル学習」に関心を持つようになったと思います。また、2020年6月から今日までの2年弱の標記施設の館長として務めさせていただいたことと、資料館創立30周年の記念のDVDを作成の過程で知った守山ボタルに関する歴史や関係者等の情報があつたからです。

さらに、昨今のホタルを取り巻く状況を見ると「ホタルの見られるまち」の取り組みはされているものの、「ホタルの住む(自生する)まち」への取り組みは弱くなっています。だからこそ今、次代をになう子どもたちが「ふるさと守山」を実感できるような「ホタル学習」をすすめるなければならないと感じています。それほどホタルには人々に豊かな感性を育む素晴らしい魅力があるのです。

下に示す「ホタル学習のネタ あれこれ」を活用して、ホタル学習ためのワークシートや資料集、参考となるDVD等を作成して、ホタル学習のカリキュラムができればと考えています。

### <ホタル学習のネタ あれこれ>

- ① 守山ボタルの歴史とホタルの一生(資料館パンフレット参照)
- ② 守山のホタルに魅せられた人たち(紙芝居の主人公として)
  - ・「江畑栄太郎」さん(料理旅館主、明治時代のホタルの皇室献上の立役者)
  - ・「南喜市郎」さん(醤油醸造業主、守山ボタル復活の立役者)
  - ・「山本光男」さん(元市内小学校長、現在ヘイケボタル復活に挑戦中)
- ③ 川や田んぼの変化と守山のホタルの実態、人間のかかわり
  - ・ホタル祭りとホタル問屋でのゲンジボタルの「売り買い」、海外輸出も
  - ・高度経済成長と河川、田んぼの構造変化(コンクリート三面張り河川、土地改良、化学肥料、農薬投入と大型機械化農法と減反政策)
  - ・野洲川改修での地下水位低下による「湧水の消滅」と下水道整備
- ④ ゲンジボタルやヘイケボタルの自生への取り組み
  - ・ホタルの産卵からの人工飼育とホタル学習、ホタルの幼虫観察と放流
  - ・農閑期の河川水の瀬切れ実態の調査とホタルの生育環境の整備



以上のことをもとに「ホタル学習」が展開されればと思う昨今です。私も微力ながら今まで培ってきた力を出して、「ホタルのすむまち ふるさと守山」の実現に頑張りたいと思います。

## 第4回守山市初任者研修

令和4年1月25日(火)に、第4回守山市初任者研修を実施しました。



午前の部は、各所属校での動画視聴研修を行いました。守山北中学校 上安 諒典先生の第一学年国語科の研究授業動画を視聴しながら、「教師の指導や支援で効果のあったこと」「改善すべきことや課題となること」の視点で考えをまとめました。学校教育課 松井 俊也 指導主事からは、「子どもが主役となる授業づくり」、「守山式授業ベーシックステップ“めたふ”」について、ご指導をいただきました。



午後の部は、「先輩から学ぶ学級経営」と題して、守山南中学校の脇 友美先生と吉身小学校の大北 憲太郎先生のお二人にご講演をいただきました。脇先生からは、「認め、つながり、つながれる」学級経営を、また、大北先生からは、特別活動を軸にした学級経営について教えていただきました。子どもの成長を願う先生方の熱い実践は、受講者に深い感銘を与えました。



### 〔受講者の感想より(一部抜粋)〕

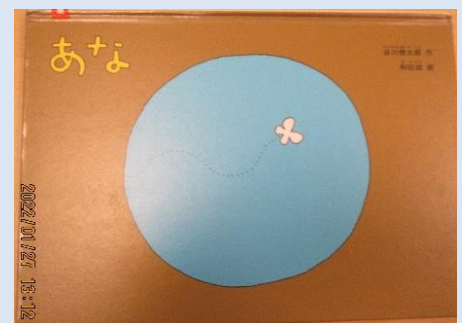
- ・脇先生の話聞き、「こんな先生になりたい!」と強く思いました。楽しく自分の話をしてくださる先生のことを見ていると、きっと子どもたちも楽しく明るい気持ちになるだろうなと感じました。今まで、「教師としてしっかりしよう」とう思いが強かったので、少し肩の力を抜き、子どもに自分のことを知ってもらいながら、一人ひとりが楽しくみんなで認め合えるような学級をつくっていきたいと思います。
- ・学校は「人間関係を学ぶところだ」という言葉が印象に残りました。コロナ禍もあり人と人のつながりが感じにくい今だからこそ、様々な人と関わる場を用意し、つなげていく必要があると思いました。PDCA サイクルという言葉はよく耳にしていたけれど、SPDCAの「Standing」の部分が一番大切だなと思いました。子どもたちの願いや思いをできるだけ形にして、楽しい学級にしていきたいと思いました。

## 守山市立図書館より先生に薦めたい一冊

### 📖 「あな」

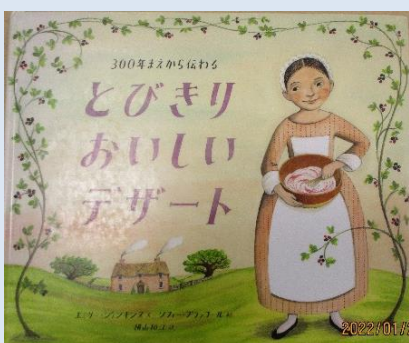
谷川俊太郎作 和田誠画 福音館書店

ひろしはある朝、あなを掘り始めます。家族や友人に理由や目的を聞かれても、黙々と掘り続け、出来上がった静かなあなの中に座り、これはぼくのあなだと思えます。自分の存在意義や、心の拠り所、周りの人達との関係について考えさせられる哲学的な絵本です。



### 📖 「300年まえから伝わるとびきりおいしいデザート」

エミリー・ジェンキンス文 ソフィー・ブラッコール絵 横山和江訳 あすなろ書房



200年前のアメリカ南東部の町、デザートを作るのは奴隷の少女の仕事で、冷蔵庫も水道もない時代には重労働です。夕食時、テーブルに座る同じ年頃の農場主の娘に、出来上がったデザートを配る少女。この絵本はデザートの歴史を通して差別について考えるきっかけになります。

